

緑の教育

始良・伊佐教育事務所 平成31年3月

緑の自然のごとく あしたをひらく豊かな心
緑の若葉のごとく あしたを創る確かな学力
緑の大樹のごとく あしたを担うたくましい身体

「プリントの文字が語りかけるもの」 ～先輩教員の実践に学ぶ～

始良・伊佐教育事務所 窪田 雅彦

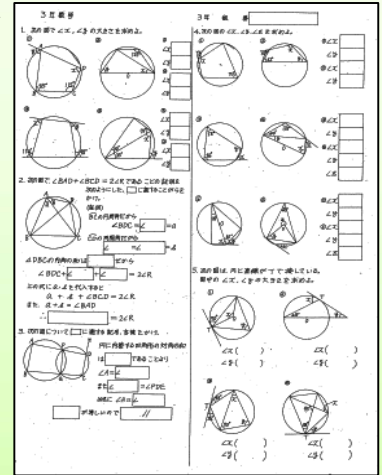
昭和63年3月、長い教員生活を終えて退職する先輩教員が、新規採用教員として1年が経過する私に、「よかったら使わんね。」と、段ボール箱を一つ手渡した。箱の中には、その先生が生徒に宿題として配布していた手書きのプリント等が詰まっていた。

ワープロやパソコンが普及し始めている頃で、私もパソコンを購入し、プリントやテスト問題を意気揚々に作成していた。今振り返ると、内容の充実というよりは体裁や効率性に気を取られていたように思う。先輩教員の授業は、毎回宿題プリントの答え合わせから始まる。座席順に一人一人順番に答え、その時間はわずか5分程度である。ほぼ全員が答えていくが、何故か間違える生徒はほとんどいない。多くの生徒が休み時間等を利用して答えを確認し合い、共に学び合う習慣が確立されていたからである。

生徒の一人に、何故皆が宿題にこんなに真剣に取り組むのか尋ねてみた。生徒曰く、「〇〇先生の字が好きで、やる気が出る。一生懸命さも伝わる。だから、数学の宿題だけはちゃんとやらないといけないという気持ちになる。」と。その話を聞き、私も手書きで挑戦してみたが、残念ながら生徒の反応は今ひとつ。先輩教員の文字が語りかけていたものは一体何だったのか。

平成31年3月、本地区には、退職を迎える教職員が40人、新規採用として1年を満了する教職員が31人いる。過去の自分の体験と重ね合わせ、先輩と後輩の温かい交流の場を想像しながら、学校組織における教職員同士の信頼関係の大切さについて、改めて考える機会としたい。

先輩教職員から学び、脈々と受け継がれているものは何か。また、子供たちを引きつけ、やる気にさせるために、教職員相互の「協働性」を高めるにはどうしたらよいか、等々。



授業力向上を目指す教職員・学校への支援 ～当教育事務所の取組～

1 始良・伊佐コアティーチャーネットワークプロジェクトの推進

- (1) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業モデルの構築 (国, 社, 算・数, 理, 外 (活) で, 小中各19モデルを構築)
- (2) 始良・伊佐スキルアップセミナーで授業モデルの発表

2 「学びの組織活性化」推進プロジェクトによる支援

- (1) 大学, 義務教育課, 県総合教育センター, 市町教育委員会で構成する支援チームによる実践校・モデル校へのサポート
- (2) 組織及び授業づくりの相談の充実 (各学校へ年3回訪問)

3 授業参観・授業研究, 研究協議へのアプローチ

- (1) 小学校学力向上対策サポートの推進 (指定校8校へ年2回訪問, 学力向上策への指導助言)
- (2) 県・地区研究協力校へのサポート 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善への指導・助言

4 各種研修資料等の効果的・継続的活用へのアプローチ

- (1) 学力向上webシステムの評価問題
- (2) 学びの羅針盤の活用
- (3) 始良・伊佐ティーチングサポート (平成27～30年度版)



スキルアップセミナーにおける顧問のまとめ



地区研究公開でのワークショップ型分科会

相互研究による資質の向上を図る

～コアティーチャーネットワークプロジェクト～

コアティー チャープロジ ェクトとは



小・中学校の教員によるコアティーチャープロジェクトチームを設置し、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業モデルの構築に取り組むことにより、教員の指導力の育成を図るとともに、授業改善に取り組む教員のネットワークを構築することを目的としています。

中学校理科部会による「主体的な学び」を視点に置いた実践例

- 方位概念がしっかり育っていない生徒にとって、天体の動きを理解することは難しい。そこで、自作教材を用いて体験的に天体の動きを実感させ、年周運動の理解を図ることで、「主体的な学び」を具現化した。

学習のポイント

- ① 主体的な学びとは、見通しをもって、粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげることに捉える。
- ② 児童生徒に課題意識をもたせる導入の工夫が必要である。
- ③ 生徒が見通しをもって学習を進めるために、教具の改善が必要である。

中学校理科 3年「地球と宇宙」

《導入時に自作教材を用いた取組》

天体の動きを捉えさせるための自作教材の活用は、年周運動の理解に効果的な実践です。教材・教具の工夫は、学びに向かう力を高め、「主体的な学び」につながります。



頭に装着し、方位や時間帯、地球の自転方向を確認できる教具



回転盤で地球の公転方向や時間帯、星座の変化を確認できる教具



中学校外国語部会による「対話的な学び」を視点に置いた実践例

- 道案内の場面設定で限られた時間で情報を整理し、相手に正しく伝え、質問に回答する力が弱いため、身近な情報源を備え、即興性をもたせるワークシートの活用を図ることで、「対話的な学び」を具現化した。

学習のポイント

- ① 対話的な学びとは、「子供同士の協働、人との対話を手がかりに考えることを通して自己の考えを広げ深めること」に捉える。
- ② 友だちと協力して問題を解決したり、正しく伝えたりする場の設定が必要である。
- ③ 対話のルールを提示し、自分なりの考えを説明する力を身に付けさせる必要がある。

中学校外国語 1年「Daily Scene 5」

《互いに道案内をする言語活動の取組》

異なるスタート地点を設定したワークシート [校区の地図] の活用は、コミュニケーションの必然性が生まれ、対話に即興性をもたせることにつながり、言語活動の充実に有効な実践です。即興性をもたせるワークシートの工夫は、「対話的な学び」の充実につながります。



【言語活動に即興性をもたせるワークシートの工夫】

小学校算数部会による「深い学び」を視点に置いた実践例

- 並べ方が何通りあるか調べる際に、落ちや重なりが出てくることから、解決場面で順序よく整理する観点や方法を考えさせ、共同の学びの場面で、様々な気づきを出させることで「深い学び」を具現化した。

学習のポイント

- ① 深い学びとは、各教科の特質に応じ「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、解決策を考えたりすること」に捉える。
- ② 共同の学びの場面や終末場面での継続的な振り返りの工夫が必要である。
- ③ まとめを書かせる場面では、キーワード等を提示し、理由・根拠を書かせる必要がある。

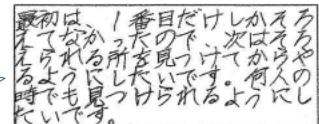
小学校算数 6年「ならべ方と組み合わせ方」

《共同の学びの場面で、大切な見方・考え方を広げ、振り返りの場面で継続的な自己評価を実践する取組》

共通点を見出し、他者の考えを解釈しながら考え方を広げることは、数学的な見方・考え方を高め、「深い学び」につながります。さらに、自分の見方・考え方を振り返り、学習内容の定着を捉えることは、「確かな学力」の定着を図ることになります。

並べ方の落ちや重なりが出さないようにするには、1番目を固定するだけでなく、2番目も固定するとよいことを押さえることが大切です。

数理的な処理のよさに目を向けています。



【終末での振り返り】

研究内容の公開とネットワークづくり ～スキルアップセミナー～

～「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践例～

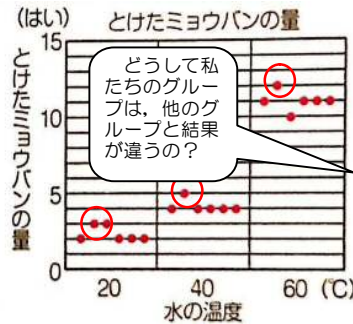
【小学校理科 6年 物のとけ方】
〈単元のねらい〉

食塩は水の温度を上げて溶ける量はあまり変わらないが、ミョウバンは、水の温度を上げると溶ける量が増えることを実験の中で気付かせ、水の温度による溶ける量の変化は、溶かす物質によって違うことを理解させることが目標です。

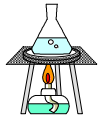
★ここがポイント★

この単元の学習目標は、適切な実験を行うことで、結果を相互に検証して、ミョウバンの溶け方の変化の規則性や特性を見出すことが学習の目標であるが、実験結果に誤差が出ることがあります。そこに課題を設定し、その誤差の原因を対話的に追究させることは、主体的な学びにつながり、児童の見方・考え方を働かせることとなります。つまり、その検証が、深い学びの場になると言えます。

対話することで、比較、関係付け、条件制御、多面的な思考等、理科の考え方を身に付けさせることができる。



温度が上がると、ミョウバンの溶ける量が増えるなあ!!



【対話により見方・考え方が深まる様子】

- A: 「すり切り1杯の量が、正しくなかったんだよ。」…※ 実験器具の使い方に着目
 B: 「ちゃんと60℃に水の温度が保たれていたかな。」…※ 水の温度に着目
 C: 「ミョウバンや水をこぼしたりすると正しく実験できないんだね。」…※ 水やミョウバンの量に着目
 A: 「これを正しくできていたら、みんなと同じ結果になったんじゃない。」



【小学校外国語活動の模擬授業】



【小学校国語の事例発表】



【中学校社会の研究協議】

「共に学び、刺激し合った39人の仲間に感謝」

～コアティーチャーの感想～



「教科を通して繋がる喜び『心はずむ時間』」

参加させていただいて、何よりもよかったのは、視点をもって日々の授業に取り組めたことです。今回は「ジグソー法」を取り入れた授業づくりで、「話し合い活動」に重きをおいた実践になりましたが、他の実践を見ることで、様々な展開があることを知りました。交流できたことも大きな収穫です。「国語」という教科を通して繋がる喜び、楽しみ、私にとって「心はずむ時間」となりました。

【中学校国語】 霧島市立舞鶴中学校 大山 香 教諭

「コアティーチャーで学んだことを還元」

セミナーに向けての準備をする中で、自分の考えを深めたり、整理したりことができました。先生方と意見交換できてありがたかったです。セミナーでも、他の先生方の発表による刺激をいただきました。また、温かい雰囲気の中で、活発な意見交換がなされました。

参加してくださった方の熱意と御協力に感謝しております。普段の授業を改善することで、子どもたちに還元していきたいと思っております。

【小学校社会】 始良市立重富小学校 畠野 翔 教諭

「よりよい授業の追求」

今回のプロジェクトは、実りの大きい機会となりました。今回「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの構築ということで、自分の授業を見直すことができました。何より他校の先生と一緒にあって、よりよい授業とは何かを考えられたことがとても貴重な経験となりました。今回の取組を通して得たものを学校教育に生かし、生徒がより「主体的・対話的に」学習に取り組めるような授業を目指して、今後も授業改善に努めたいと思っております。

【中学校外国語】 始良市立加治木学校 山口 祐介 教諭

切れ目ない支援のためにどうすればいいか

～特別支援教育の充実を目指して～

確実な支援の“引継ぎ”が必要です

【本地区の実態】

- ① 地区内における移行シートによる引継ぎ状況
(幼保等⇒小 64.8%, 小⇒中 90.9%)
- ② 移行シートを活用した学年や学年部でのケース会議の実施
(小学校 69.6%, 中学校 85.7%)
【H30 学校教育についての実態調査より】

【引き継ぐ際の留意点】

- 資料による確実な引継ぎ
- 移行支援シートの効果的な活用
- 引継会（連絡会）の実施



学校間連携支援事業パンフレットはコチラのQRコードから



生涯学習によるまちづくり

～若者もキラリと光った地区生涯学習推進大会～

活動発表の紹介

薩摩琵琶演奏	島津義秀さん（始良市）
鹿児島県青少年ふれあい事業報告	米盛琴華さん（伊佐市） 坂元佑哉さん（伊佐市）
古布創作教室活動発表	永山終子さん（湧水町）
少年の主張	篠原真夏さん（霧島市）

【少年の主張】

活動発表では、篠原真夏（横川中学校3年）さんが「兄の遺したもの」の演題で家族愛について熱弁し、参加者の心を惹き付けました。

この弁論は、第40回鹿児島県大会少年の主張で最優秀賞、第40回少年の主張全国大会努力賞を受賞しています。

当日の様子は、当事務所ホームページにてご覧いただけます。

こちらのQRコードから



夢はサッカー日本代表 ～国体に向けて輝く 中学生②～



今回は、ジュニアアスリートとして、サッカー競技で活躍している始良市立重富中学校2年の笠置潤さんを紹介します。

笠置さんは、JFA エリートプログラム U-13 日本代表に選出され、平成30年9月にスペインで開催された「MADRID FOOTBALL CUP」にDFとして出場し、優勝に大きく貢献しました。



◆ サッカーを始めた動機と魅力

重富小1年生の時に、3歳年上の兄がサッカーをしている姿を見て、楽しそうと思って自分も始めました。サッカーを通して、仲間の大切さを学ぶことが多く、友達が増えることも喜びとなっています。

◆ 「MADRID FOOTBALL CUP」の出場について

試合に多く出場できた上に、優勝できて嬉しかったです。時差や食事の違いで、コンディションを整えることが大変でしたが、うまくできたのは、今後の競技生活に生かすことができると思います。



◆ 管内の小・中学生へのメッセージ

僕の将来の夢は、サッカーの日本代表に選ばれることです。また、今の目標は、重富中学校サッカー部が九州大会に出場すること、かごしま国体の選手として選ばれたら、勝利に貢献し、優勝することです。

自分の夢や目標を達成するために、サッカーの練習は当然ですが、食事面等での体づくりや、日常生活において、挨拶を意識してするようにしています。皆さんも、自分の夢や目標を達成するために頑張ってください。

編集後記

「夢であった教師になった。子供たちの将来に必要な力を付けられるようになりたい。」本年度の新規採用の先生方が書かれた「教師としての第一歩」の一文から、情熱が伝わった。同時に、教師としてのスタートラインに立ち、理想と現実の狭間で奮闘したであろうこの一年に、思いを馳せた。教師なら、誰しもが通った道である。

今年も、地区内の先生方の中から、コアティーチャーが編成され、学力向上に向けた取組の一つとして授業提案がなされた。現状に満足することなく、授業改善に挑戦し続ける方々の、おそらく初任のとき以上に、教師としての自覚をもち、使命に燃える「熱き思い」に心が震えた。「初心忘るべからず」とは、世阿弥の言葉である。彼は、初心として、「是非の初心」「時々の初心」「最後の初心」の三つを示している。「初心」とは、人生において度々抱く機会のあるものであり、例えば、順風満帆にことを進めることができたり、他者から高い評価を得ていたりしても、慢心することなく、常に向上しようとする努力し続けることが大切であると述べているのである。

本年度も、私たちは、子供たちの貴重な一年を預かった。彼らが自身の未来を切り拓く力を身に付けるために、私たちに何ができたのかをしっかりと捉えていきたい。

指導課 霜田 さおり